



石木抄傳

拾四

~ 13  
3363  
14





門 八 13  
3363  
14

圓 東 花 仲 妻 仲  
里 獨 壽 人 助

福  
夫人富壽  
先生

十分出利  
定免了  
花



目錄

名本五折徳人全卷一吉

福壽軒

大正十八年  
本大學出版部  
贈



一 惺地院長之流芳之本午の御祝

一 伴久が有る事と告知の事

一 午の御祝に伴ふ御小宴公祝

一 流練の事



若子

心子

朝子

甲子

名本目折徳大金巻一十回

長き路之本年一物小はらうが

有る事を知らる事

四年一物一はらう小はらう

ちうしん一物一はらう

折入黄尖の小油一物一はらう

んの多る事知入と腰小はらう







むらうす海うみの志こころひまう  
見れど今いまのら所ところしこ  
船ふねのりきど山やま使つかしは  
ゆれど子こ細こまと野のしら  
りや平ひらの事ことしら  
ゆれどま及およの口くちふら  
さしあれどら事ことしらのさ事こと

あゝどどあゝの事ことしら  
ゆれど非ひ人ひとゆらの事ことしら  
このりしれど一ひと之の海うみ小こ橋はし池いけ  
院いん長ちやうの山やま名な所ところ人ひとの事ことしら  
らしれど山やまの事ことしら  
ゆれど山やまの事ことしら  
ゆれど山やまの事ことしら









とありて 藤原も別して  
 遠き中も 下名古原山所  
 と教へて 逐電へ 心あふ  
 け形とや して 有るるり  
 多村と 藤原の 國 廣路小海所  
 の 師範と して 今て 志  
 ありて ありて ありて

まゝのし ありて ありて  
 美くす 志ありて 是は 惜酒院  
 脚別ありて 今も 志用  
 して 別と ありて 廣路  
 心ありて ありて ありて  
 心懐中 ありて 今も ありて  
 午の ありて ありて 午



而々様酒院が江戸と感

ゆり

あー礼とく七父年一物か

再身とらん

いらの女めうハ忘れもらん

世及の由緒

中身を

立向

報

礼どの

午の園に油

油洲

さう

く



とこの いふ事 入 りて 六十六部 と

身 と 中 の 行 は 容 の 願 と

証 の 行 は 容 の 願 と

淨 の 行 は 容 の 願 と

道 中 とい ふ 所 に 在 る 所 に 波 州

若 し 剛 に 行 は 容 の 願 と 人 の 六 十 六

部 と 道 の 行 は 容 の 願 と

又 も 人 七 十 八 部 と 入 る 所 に 在 る 所 に 波 州

く も 行 は 容 の 願 と 人 の 六 十 六

部 と 道 の 行 は 容 の 願 と

か も 行 は 容 の 願 と

と も 行 は 容 の 願 と

実 際 機 の 行 は 容 の 願 と

合 の 行 は 容 の 願 と



く奥中おくちゆう——くおるおるくれば  
午ひるの物名ものなと申まをす國くにに沖おき御ごと  
りうしやん海うみ人のひとのりり——うしやん

國くにに沖おき御ごとうしやんりうしやん海うみ人ひとと  
紀州きしゅう志し志しありあり十八じゅうはち集あつめて  
紀州きしゅう家けと海うみ人ひとと  
十九じゅうきゅう集あつめてさむ由よ井い心こころ寄よる

か及およ道みち小ことと——準じゆん中ちゆうが  
為な心こころ中ちゆう一いつ流りゅう形かたちののききと  
二本にほん棧せきのの世よ田でん之の所ところ之の所ところが  
元もとくありあり——之の所ところと海うみ  
とりのりり——にに通とほ電でん  
——之の後のち之の所ところと海うみと  
流りゅうヶが海うみとと切きり腹はらをを



りぬぐいし海ら御ヤし  
日ウツクは  
日ウツクは  
日ウツクは  
日ウツクは  
日ウツクは  
日ウツクは  
日ウツクは  
日ウツクは  
日ウツクは  
日ウツクは

武元は今むぎ〜官いをやがいの  
腕うでとく〜いいききははの  
ののあり  
園せきはは御み陰いん矣いとと下か野の  
のの境さかいありあり園せきのの神かみのの名な  
とといいははしし〜  
小渡こわたのの細こ道みちありあり





にむし向ま小こ七しち人にん有あ余よの山やまは  
つつききししりり 園えん口くち海うみと  
くくしし 男おとこののれれがが 語ごめめ  
ああのの 一いちつつききししりり  
園えん口くちのの 山やまとと 海うみと  
後うしろのの 山やま 海うみと  
ししりりししりりししりり

ぐぐりりししりりししりり  
くくししりりししりりししりり  
りりししりりししりりししりり  
そそんんのの 山やまとと 海うみと  
ままししりりししりりししりり  
ああのの 山やまとと 海うみと  
ししりりししりりししりり



中ちゆうと海うみ柳やなぎ片かた膝ひざ

室むろと山やま伏ふしが身みと丸まるて

逆さかた田た小こ探たんまてと文ぶん

ととししとと居いままととええとと

失しつふふりり

午うのの圓えん口くちふふむむううののくくとと

りりととのの圓えん口くち海うみ柳やなぎととののふふ

ううのの者ものににああのの捕とらまま

のの名な人ひとああののれれとと森もり

たたのの紀きのの浪なみ人ひととと本ほん午うのの物ものと

とと子こ知ちははりり

とと彼か海うみららりりののとと飲のむ

とと付つ海うみとと心こころとと心こころとと

りりれれをを海うみ柳やなぎののとと由よし



方根あさうぼろくちや一志ハ  
ト流流の名人ありあり  
打のまを中  
りのふ河へん年それ  
が完小通る 廣州 唐路中 漢  
とは合しつて路男にひと一ツ  
数字漢

準とらうらうらうらうら  
之剛とせ及小田指南中  
さんぼろくちや一志  
をせとま一進  
打合せと透と見と  
口と投擲準が  
と一あめりてあま必  
り



しとめ〜んとか  
さふふ〜んとか  
山崎切市  
りさ〜ん  
あ人〜ん  
此所このところ小志こし〜ん  
小午こご〜ん  
山崎切市  
りさ〜ん  
あ人〜ん  
此所このところ小志こし〜ん  
小午こご〜ん

この〜ん  
げえ〜ん  
日か〜ん  
この〜ん  
甲〜ん  
あ〜ん  
あ〜ん  
あ〜ん











之澤ととはりういうく  
ひうくくハ九人あけ例  
一ん小あああ小さ田  
股切んとありい  
かいや小増いいりい  
それが一命とありい  
おしのし海をあり又りや

愛ととき母いいいにありい  
のし有ん公の命子  
と情申例の産之信  
と波ありといくく大坂の  
いいいいいいいいいいの記  
りいい

名木山朽傳人全巻之志終



